



地域医療連携 News

平素より中国労災病院が大変お世話になり、誠にありがとうございます。

地域医療連携News第177号を発行致しました。今後とも連携の程よろしくお願い申し上げます。

中国労災病院理念

働く人と地域の人のために患者中心の良質な医療を提供します。

中国労災病院の基本方針

- 個人の尊厳と権利を尊重し、高度で安全な医療を推進します。
- 地域の医療機関と連携し、救急・急性期から慢性期までの一貫した医療を実践します。
- 最新の医学に基づいた専門的な医療を実践します。
- 働く人の健康を守り、治療と仕事の両立を支援します。
- 周産期医療を充実させ、未来を担う子供たちを支援します。
- 優れた人材を育て、働きがいのある職場づくりを推進します。

初期臨床研修の理念

当院の初期臨床研修の理念は、崇高な信念と人格をもち、基本的な診療能力及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身に付けた自立した医師を育成することです。

初期臨床研修の方針

- ①患者中心の思考・行動をする姿勢を持つこと。
- ②救急医療やプライマリケアなどの診療能力を修得すること。
- ③他の医療スタッフと協調し、安全で質の高いチーム医療を提供すること。
- ④地域のかかりつけ医と連携し地域完結型の医療を学ぶ。
- ⑤症例を通じて、診断・治療の結果だけでなく、プロセスを学ぶ。

1. 看護部長あいさつ

日頃より当院と連携を図ってくださっている医療機関・介護施設・地域の先生方をはじめ医療・福祉に携わる職種の皆さまには大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

本年4月より看護部長として着任しました富吉明美と申します。着任して数か月が経ちますが、まだまだ手探り状態です。自分のできることは何かを考えながら、精一杯頑張っていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

当院では、「働く人と地域の人のために患者中心の良質な医療を提供します」という病院理念のもと、地域の皆様に愛され選ばれる病院を目指して日々取り組んでおります。

今、日本はこれまでに類を見ないほどの人口減少の時代に突入しようとしており、超高齢化、生産人口の減少はますます進むとされています。社会情勢に合わせた医療提供体制の構築が求められる中で、医療の機能分化と連携による病病・病診連携は、地域医療の維持の中核となっています。さらに近年は、患者さんやご家族のニーズも多様化し、疾病を持ちながらもできる限り地域や家庭で自立した生活が送れるようにと医療・看護・介護のサービスの提供が求められています。

地域包括ケアシステムの中では、他職種とのネットワーク構築がますます重要となっております。看護職は、常に患者さんに寄り添っており、多くの情報を持っています。そして、患者さん・ご家族の最も身近な存在として患者を理解し、様々な問題をとらえることが出来ます。その問題解決のために、他職種のコーディネイト役としてチームの要となり、患者さん、ご家族の問題を解決できるように支援していきたいと考えております。

今後とも、どうぞよろしくお願い致します。



看護部長
富吉 明美

2.いざという時のための「適切な対応」知っていますか



小児科医長
岩本 立

遊びに行く前に、知っておきたい

事故や病気は突然やってきます。特に夏場は、水の事故や熱中症が増える季節。いざという時に慌てず行動できるよう、「適切な対応」を知っておきましょう。

もしも 溺れてしまったら…

小さい子どもにとって、溺水トラブルは非常に身近な事故。ほとんどは軽症で済んでいます、一歩間違えれば命の危険があります。



子どもの溺水について

2018年に長野県で行われたアンケート(対象:保育園児の親2012名)によると、約40%の保護者が「子どもが溺れかけた経験がある」と回答しています。場所として最も多いのが「浴槽」で、特に1歳児の浴槽での溺水は季節を問わず多発しています。また5歳以上になると、海や川・プールでの溺水が増加します。

溺水のほとんどは軽症で済んでいます、病院へ搬送されたケースの約30%が「命にかかわる」と判断されています。

溺水は一歩間違えると重症化しやすく、命が助かっても重い後遺症が残る場合があることを知っておいてください。

ここ数年、密を避けて海や川など自然の中で遊ぶファミリーが増えています。こうした場所は監視の目が届きづらいため、特に注意が必要です。

子どもは静かに溺れます

溺れている人といえば、「大きな声で助けを求める」というイメージがあるかもしれませんが。しかし小さい子どもは、ほとんど声を出さず、音も立てず、静かに溺れます(本能的溺水反応)。溺れている本人は、自分に何が起きているか分かっていません。溺れていることが周囲に分かりにくいので、大人も気付かず、そのまま静かに沈んでしまうケースもあります。子どもが水遊びをしているときは、にぎやかな音がしています。静かなときほど、注意したいものです。



いざという時は…

溺れていた時間が短く、呼吸と顔色が正常であれば、受診する必要はありません。呼吸はできていても顔色が悪く意識がもうろうとしている場合は、慌てず体を拭いて服を着せてから受診しましょう。

うつぶせで水に浮いているところや、水の中に沈んでいるところを発見した場合は、すぐに胸骨圧迫(心臓マッサージ)と人工呼吸を開始し、救急車を呼びましょう。

プールやスポーツ施設、公共施設などであればAEDが設置されているので、装着できる場合は使用してください。施設などを利用する際は、事前にAED設置場所を確認しておくことと安心です。

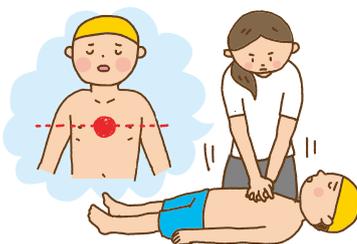
途中で呼吸が戻ったら一安心。冷えないように体を拭き、本人が楽な姿勢をとって、救急車の到着を待ちましょう。

呼吸や心拍が戻らない場合は、救急車が到着して救急隊に引き継ぐまで胸骨圧迫と人工呼吸を続けてください。救急車を呼んだ際、通信司令員から応急処置について指導してもらうことも可能です。携帯電話のハンズフリー通話機能を利用すれば、処置を継続しながら指導を受けることができます。

溺れているかもしれないサイン

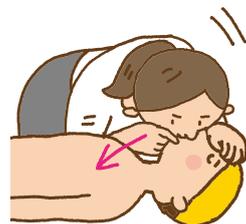
- ⚠ 浮き沈みを繰り返している
- ⚠ 頭が水に沈みかけていて、口が水面付近にある
- ⚠ 水の中で、ハシゴを登っているような動きをしている

胸骨圧迫と人工呼吸 胸骨圧迫 30回 に、人工呼吸 2回 の組み合わせで行います。



胸骨圧迫のやり方

胸の真ん中・胸骨の下半分の場所を、胸が1/3程度へこむくらいの強さで圧迫します。速さは1分間に100~120回(アンパンマンのマーチくらいのテンポ)が目安です。



人工呼吸のやり方

- ① 頭を少し下げ、あご先を持ち上げる
- ② 口と鼻を一緒に口で覆い、密着させる。同時にふさげない場合は、鼻をつまんで口と口を密着させる
- ③ 胸が膨らむのが分かるくらい、息を吹き込む



万が一の時の対応

もしも 熱中症になったら…

熱中症とは、体温調節がうまくできなくなり体内に熱がこもった状態のこと。これからの季節に増えてくるので、正しく知って予防しましょう。

子どもは熱中症になりやすい

子どもは大人に比べて基礎代謝が高く、熱生産量が多いです。一方汗をかく機能が未熟で体温を下げるのに時間がかかるため、熱が体内にこもりやすい傾向があります。身長が低い子どもは地面からの照り返しの影響を受けやすいことも、子どもが熱中症になりやすい理由としてあげられます。

加えて子どもは、体調の変化を言葉でうまく伝えられません。遊びに夢中になっているときは、体調が悪くても気付かないことがあるので、大人が気を付けてあげてください。

乳幼児のための、熱中症対策

空調の効いた環境にいと体温調整機能が発達しませんし、気温の変化に体が対応できません。普段から外遊びをし、気温の変化に体を慣らしておきましょう。

水分補給は、のどが渇く前に行うのがポイント。暑い場所へ遊びに行くときは、出掛ける前に水分補給をしておきましょう。遊んでいるときはたくさん汗をかきますが、小さい子どもは「水分補給のタイミング」が分かりません。大人が時間を決めて、水分補給を促しましょう。「のどが渇いた？」ではなく、「1口飲んでおこうか」と声を掛けてみてください。一度にたくさん飲むのではなく、少量をこまめに与えることが大事です。

屋外で遊ぶときは、こまめに日陰で休憩をとるようにしましょう。後ろ側に日除けがついた帽子は、首の太い血管を日光から守ってくれるので、熱中症対策に効果的です。



水分補給をするなら、スポーツドリンク

汗をかくと、水分と一緒にミネラルや塩分も体外に排出されます。熱中症予防を目的とした水分補給には、お茶やお水より、スポーツドリンクや経口補水液が適しています。アルコールやコーヒーは、利尿作用があるため飲んで水分補給になりませんので大人も要注意です。

経口補水液は水と塩分を効率よく吸収できるバランスに調整されています。一方スポーツドリンクは飲みやすさも考慮し、経口補水液より糖分が多め&塩分が少なめに調整されています。水分補給としては経口補水液が理想的ですが、スポーツドリンクの方がおいしくて飲みやすいため、熱中症予防のために飲むならスポーツドリンクで構いません。すでに熱中症になっている場合は、消化の負担になりにくい経口補水液が推奨されます。

いざという時は…

こむら返りや立ちくらみは、軽度の熱中症のサインです。涼しい場所で水分を摂りましょう。

頭痛や嘔吐、軽い発熱がある場合は中等症です。涼しい場所へ移動して衣服を緩め、足が頭より高くなるように上げて寝かせます。水分が自分で摂れるようなら、経口補水液を少しずつ飲ませましょう。体温が上がっている場合は、霧吹きで水をかけたり濡れタオルで体を拭いたり、あおいだりして体を冷やしましょう。首や脇の下、足の付け根などの太い血管を冷やすことも効果的です。

意識がはっきりしていて自分で水分を摂れるようなら、急いで受診する必要はありません。意識障害があり、汗をかいていない場合は救急車を呼びましょう。

3.内視鏡手術支援ロボット (hinotori) 導入のご案内

当院では、内視鏡手術支援ロボット (hinotori) を導入し、令和4年10月から泌尿器科で手術を開始します。これまでの手術経験とロボット技術を生かして、より安全な手術を提供いたします。



株式会社メディカロイド (Medicaroid Corporation)
hinotori™ 公式サイト内製品情報ページ
<https://www.medicaroid.com/product/hinotori/>



4.連携室から先生方へのお願い

★対診票ご持参のお願い

他医療機関・介護老人保健施設に入院・入所中の患者さんが、当院外来を受診される際は対診票が必要となっております。患者さんの円滑な受診のため、当院受診の際は対診票のご持参をお願いします。

★MRIご予約の際のお願い

体内金属留置の有無について必ずチェックをお願いします。



地域医療連携システム (medigle)

当院の連携医療機関がWEB上で、住所、診療科、診療日等の検索ができます。当院HPから又は、右記のQRコードからご覧いただけます。



medigleQRコード

中国労災病院公式Twitter

患者さんへのご案内、地域の医療機関の先生方へのご案内、各部門からのコラム等を発信中です。ぜひフォローをお願いします。Twitterアカウント (@chugokuh_kure)



TwitterQRコード

過去に発行した連携ニュースは、当院ホームページにてご覧いただけます。



地域医療連携ニュース第177号

発行日 令和4年7月29日

中国労災病院患者サポートセンター
〒737-0193 広島県呉市広多賀谷1-5-1 Tel.0823-74-0321 Fax.0823-74-6260
患者サポートセンターホームページ <https://www.chugokuh.johas.go.jp/regionalPartner/>

